

# News Letter

## GI登録「宍道湖産ヤマトシジミ」

水の都として県都松江市の情景を作り出す宍道湖は、中国山地の船通山から流れ下る斐伊川の水と日本海の海水が混じる汽水湖で、国内で7番目に大きい湖です。

川と海の多種多様な魚介類に恵まれ、スズキ、モロゲエビ（ヨシエビ）、ウナギ、アマサギ（ワカサギ）、シラウオ、コイ、シジミ（ヤマトシジミ）は宍道湖七珍と呼ばれています。

その中でもヤマトシジミは、斐伊川からの砂が溜まり水深が浅く、塩分が海水の10分の1程度となる環境が生息に適しており、宍道湖における水産資源量の9割を占めています。

### 宍道湖シジミ漁の歴史

宍道湖周辺の貝塚からは、シジミが多数確認されており、縄文時代から食用とされていたことが伺われます。江戸時代には、松江藩に御用シジミとして献上されるとともに、毎朝天秤棒などで売り歩く「松江のしじみ売り」が風物詩となって、庶民の味として親しまれていました。

昭和40年代の高度成長期に各地の湖沼の干拓等が進み、全国のシジミ漁獲が減少したことに伴い、それまで地域で消費されていた宍道湖産ヤマトシジミは、保冷車等の輸送技術の向上もあり、需要を満たすためより良い価格で全国へ出荷されるようになりました。



宍道湖嫁島周辺でのシジミ漁



宍道湖産ヤマトシジミ

### GIへの登録

宍道湖漁業協同組合（昭和24年設立、以下「宍道湖漁協」という。）でのシジミの取扱いは、漁協を通じての販売ではなく、従来からの慣習で、個々の組合員が馴染みの問屋（卸）へ販売する形態となっています。

全国に販売されるようになってから、宍道湖漁協はシジミを取りすぎないように、昭和48年から1日の漁獲量を500kg以下に制限しましたが、平成に入り、夏場の高温からか宍道湖に藻が大量発生するなどの水質悪化や大雨による塩分濃度低下でシジミが大量へい死するなど漁獲量は年々減少していき、宍道湖漁協は、さらに規制を強め資源保護に努めたものの、平成22年に漁獲量日本一の座から陥落してしまいました。

このころ、全国で牛肉などの産地偽装が社会的問題となっており、宍道湖漁協は平成26年に制度化された「地理的表示制度（GI）」（※1）に登録し、宍道湖産ヤマトシジミのブランドを守ることを検討したものの、GIの申請に必要な「生産工程管理業務規程」を組合員に順守してもらう総意を得られず、申請を断念していました。（次ページに続く）



GI 穴道湖産ヤマトシジミ

穴道湖漁協の組合員は、シジミを守るため一丸となって藻の除去、稚貝の放流などに取組み、更なる資源量回復を目指し、今では週3日（水、土、日曜日）の休漁、禁漁区域の設定、一日の漁獲量を90kgにするなどの規制を行っています。

これらの一致団結した取組みが資源量回復とともに組合員の穴道湖産ヤマトシジミのブランドを守ることに意識の醸成に繋がり、これまでネックになっていたGI登録申請に必要な「生産工程管理業務規程」の順守について総意が得られ、令和5年に申請し、令和7年11月島根県として4番目（※2）となるGI登録「穴道湖産ヤマトシジミ」・「穴道湖しじみ」が誕生しました。

（※1）地理的表示制度とは、特定の産地と品質、社会的評価等の特性の面で結びつきのある農林水産物・食品等の産地の名称を知的財産として保護する制度。

（※2）県内の他のGI登録産品は、「東出雲のまる畑ほし柿」、「三瓶そば」、「益田アムスメロン」。

## GI 穴道湖産ヤマトシジミのこれから

穴道湖漁協の渡部和夫代表理事組合長は、穴道湖産ヤマトシジミについて、「これまでの資源保護の取組で、資源量も回復傾向となり、採れるシジミも従来の「S」から「M」規格が中心となってきた。組合員が直接取引する問屋では、独自の規格で販売するところもあるが、GI登録を契機に穴道湖漁協の規格に統一してもらうよう要請しており、前向きな回答を得ている。また、令和7年は、小泉八雲の妻を主人公としたドラマも放送され、松江に観光へ来られる方も多く、ドラマの中で取り上げられた効果からか、シジミの売れ行きが良い。この度のGI登録と合わせ、販売促進を進めたい」と話されていました。



穴道湖漁協の直売所

## 穴道湖のシジミ漁あれこれ

穴道湖のシジミ漁は金属製の網カゴのジョレンを使い、1機械掻き、2手掻き、3入り掻きの漁法があります。

- 1 機械掻きは、大型のジョレンと船をロープで結び、船の動力でジョレンを引きます。体力的に楽で効率が良いため、他の二つの漁法より作業時間が1時間短く設定されています。
- 2 手掻きは、船上から手でジョレンを引きます。ジョレンを操る手の感触から、湖底の状況が分かるとされています。
- 3 入り掻きは、湖水に入り、ジョレンを引きます。体力的にきつい漁法ですが、手の感触のみでなく、足裏からもシジミの状況が分かるとされています。

なお、2及び3の漁法での漁は、手掻き専用漁場の設定があります。

昨今は、機械掻き漁が多くなり、入り掻き漁をされる方は極僅かになっているそうです。



入り掻きでのシジミ漁



シジミを掻き取るジョレン（手掻き用）

写真提供：穴道湖漁業協同組合